



2021-22 年度
福山西ロータリークラブ

例会情報

第 1464 回 (12)

会 長 能 登 伸 一
幹 事 河 村 直 孝

クラブ会長テーマ：「ロータリーに参加して自分も人も豊かにしよう！」

日 時 2021 年 10 月 5 日 (火) 12:30 ~
場 所 福山ニューキャッスルホテル
例会行事 点 鐘 ・ ソング 「 君が代・奉仕の理想 」
ゲスト・ビジターの紹介 (出席報告参照)

例会情報

[会長報告](#)
[幹事報告](#)
[出席報告](#)
[S A A 報告](#)
[スマイル報告](#)
[プログラム情報](#)
[その他報告](#)

その他情報

[メイクアップ情報 \(来週分 \)](#)
[メイクアップ情報 \(再来週分 \)](#)
[今後の行事予定](#)
[クラブ活動報告](#)



*Ctrlキーを押しながらクリックするとそのページが表示されます。



【 会 長 報 告 】

皆さん、こんにちは。緊急事態宣言も明けてやっとこうして集まることができました。本当にうれしく思います。

今日の報告は盛りだくさんです。まず、9/26は西友会第一回目が開催されました会場の後方に豪華賞品が並んでいます。のちほど黒木代表幹事から授与されます。参加された皆さん、お疲れ様でした。

そして一昨日の奉仕の森の清掃活動では快晴の下、ロータリーを愛する会の丸山理事長をはじめ3名のメンバーと一緒に、社会奉仕委員会で用意して頂いた「奉仕の森」への案内看板の設置、除幕式とともに清掃活動を多くのメンバーと行いました。参加された方々、お疲れ様でした。この看板の効果できっとここを訪れる市民も増えるのではないかと期待しています。そしてせっかくきれいにして水仙も植えたので、私自身の反省も含めてですができるだけ多く私たちもここに行くようにしたいと思います。

久しぶりのリアルでの例会開催となりました。8月、9月で行った ZOOM 例会は改善すべき点もいくつかありましたが何とか終えることができました。皆さんのご理解とご協力のお陰です。この機会に初めて ZOOM を使えるようになったという方が何人かいらっしやるのが何よりよかったと思っていますし、さらに本音を申しますと DX 推進を標榜されるガバナーが来られた際にはちょっと胸を張れると思っています。

そしてまた昨日は来年3月26日開催される IM の実行委員会が行われました。塩川ガバナー補佐、木村ガバナー補佐、福山ロータリークラブの関係者と宇田委員長と石岡副委員長と鹿内ガバナー補佐幹事と私が出席しました。今年度 IM のテーマは「脱黒子」、サブテーマが「ロータリー、そのイメージと認知度 UP へ」ということです。ロータリアン一人ひとりが主役で主体者として IM に関わり、みんなでその成果を享受しようという意味に捉えています。福山西ロータリークラブ会員のみinnで盛り上げたいと思います。

さて、本日はロータリー財団・米山記念奨学会委員さんの企画例会でございます。丸の内ロータリークラブのカウンセラー佐藤さんと奨学生のカンウホウさんにお越しいただいています。お忙しい所ありがとうございます。私も米山記念奨学会についてはまだまだ理解が浅いので今日はしっかり学ばせて頂きたいと思います。

皆様、今日も宜しくお願ひ致します。

[表紙へ](#)

【 プログラム情報 】

《 米山記念奨学生卓話 》

米山記念奨学生 管 宇鵬 様

米山記念奨学生カウンセラー（福山丸之内 RC） 佐藤 邦彦 様



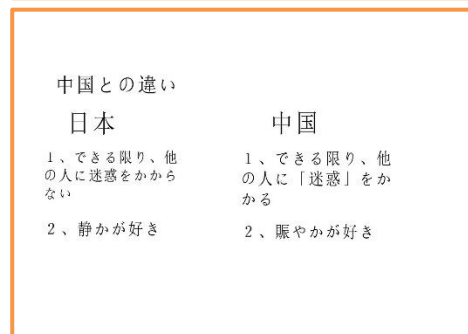
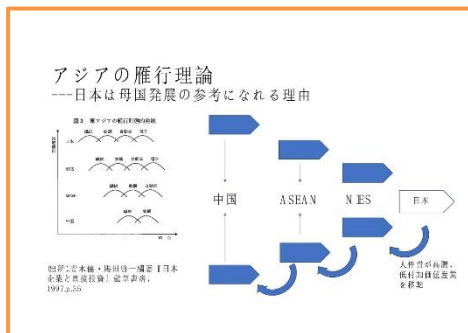
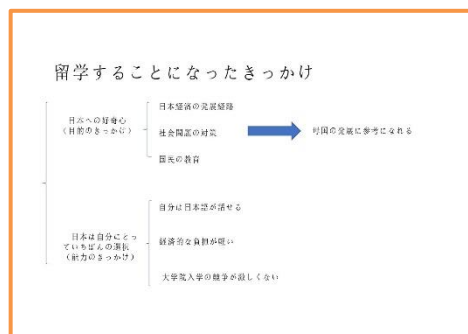
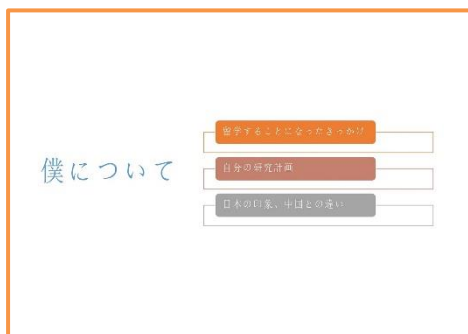
今日はですね、僕のことについて発表します。発表は日本に留学することになったきっかけ、研究計画、日本の印象など三つの部分に分けています。自分の発表を通じて中国留学生はどのようなイメージを知って欲しい。

僕は日本に留学に来たのは、目的のきっかけと能力のきっかけがあります。能力のきっかけ、あるいは現実的な理由は、例えば、自分は日本語が話せること。一年生の時に、日本語科の学生でした。二年生に歴史科に変わりましたが、日本語を独学していたので、留学には充分です。また、日本の物価が欧米とほぼ同じですけど、アルバイトが多い。僕の両親は農民で、物価が低い中国で家族の生活が楽々ですが、留学の費用が全て両親に任せるのは難しい。だから、アルバイトは僕たち留学生にとっては魅力的である。そして、中国は学歴社会である。毎年大学院入学の競争が大変激しい。日本留学は競争が激しくなく、自分の専門経済学では優れる教育資源がいっぱい。目的のきっかけというのは、なんのために日本に来た。それは日本の社会安定の維持方法に興味があるからです。日本の国民健康保険制度、国民の教育、少子高齢化の対策など、それらは母国の発展に参考になれる。そういう結論は自分の考えだけではなく、経済理論にもあります。アジア経済分野ですごく有名な雁行理論がその理由を説明します。日本は数十年前から高速発展を遂げました。最初に強い製造業が人件費の高騰で、利潤がなくなりました。それで、製造業がたくさんNIEs国に移転しました。NIEs国は日本製造業の転入で発展して、人件費も高まりました。製造業がもう一回移転しました。アジアのこういう発展経路は雁行みたいなので、雁行の頭としての日本が今直面している問題は将来には中国も直面するかも知れません。例えば、80年代の日米貿易摩擦のように、2018年に米中貿易摩擦もありました。

これから、自分の研究計画書について紹介します。僕の研究計画は自由貿易協定の農産物貿易にどんな効果があるのかということです。なぜこういうテーマにするか言うと、それは、今までの二年間で、日本農産物の価格が高過ぎと感しました。日本に来たばかりの時に、ア

アルバイトがないので、収入もないです。ほとんどの果物が買えなかった。果物を買うと、必ずバナナ。だから、今はもう二度とバナナを食べたくないです。自分の仮説は ASEAN と中国の自由貿易協定が各国の比較優位がある農産物に効果が大いなのです。僕は計量経済学モデルで自分の仮説を証明します。もし自分の仮説が証明できれば、将来のアジア地域自由貿易協定の締結に参考になれると思います。例えば、各国は自国の比較優位がある農産物を早めに自由貿易を始める可能性があります。それは発展途上国の食糧安全問題に役に立つと思います。

最後は僕の日本の印象、日本と中国の違いを話します。実は僕が日本の印象を三つの段階に分けています。最初の半年で、新鮮感がありますので、日本のなんでも面白いと思います。でも、新鮮感が消えてからの一年間に、日本の生活にちょっと嫌になります。理由は日本での友達作りが難しいのです。みんなは自分のグループがあり、グループに入るのは難しいです。でも、去年の年末から日本の生活が好きになります。もっと正しく言えば、広島が好きになります。こっちの環境がいいし、地元の住民も優しいです。将来は広島で家を買うかもしれません。中国と日本が両方とも漢字圏の国だけど、社会文化には違いが多いです。例えば、日本の文化にはできる限り、他の人に迷惑をかからないルールがあります。一方、中国ではできる限り、他の人に「迷惑」をかかります。もちろんこの迷惑は本当の迷惑ではありません。みんなは積極的に他の人を助ける、他の人から助けをもらうことで、仲良くなります。また、日本は静かが好き、中国は賑やかが好き。中国で黙祷でも賑やかな場合があります。





BGM ♪
出 細
囃 井
子 資
伸 伸
さん

【その他報告】

《「ロータリーの友」誌 紹介》

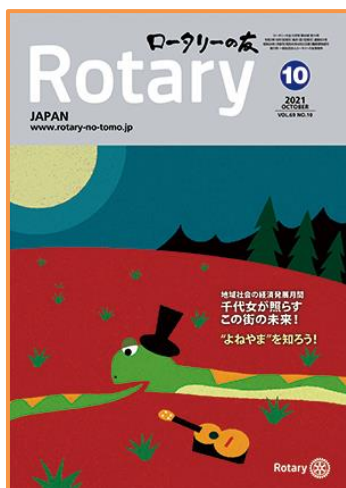
ロータリー情報委員会 登里 孝司



10月は「経済と地域社会の発展月間」及び「米山月間」です。

1. 横目次 P5 2021-2022 年度 RI 会長メッセージ
 - ・職業訓練や資金援助、経済的独立支援などのプロジェクトで貧困地域の人々の暮らしをよくするために尽力すれば、地域社会の経済発展を助け、成長を維持させる事になる。
2. 横目次 P7~10 地域社会の経済発展に関する特集記事
 - ・白山 RC が地域社会の経済発展のために「大学・商店街・青年会議所・商工会議所・市」と一体になって取り組んでいる事例が紹介されています。
 - ・市をあげて地域社会の要として「加賀千代女」をキーワードに新たなイメージを創出し、地域文化発展に繋げていく事を目標にしている。
 - ・「加賀千代女」とは、女流俳人で 1703 年に旧加賀国松任町に生まれた（現・白山市）。
 - ・代表的な句は「朝顔に釣瓶とられてもらひ水」です。
3. 横目次 P11~13 “よねやま”を知ろう
 - ・米山財団創始者の米山梅吉氏の紹介記事、米山財団の歴史、米山奨学生だったキム・イクス氏の米山月間特別寄稿文が掲載されています。
4. 横目次 P23~25 多様性・公平さ・インクルージョンへのロータリーのコミットメント
 - ・全ての人の背景・民族・人種・宗教・文化等・それらが何かは重要ではない。ロータリーのあらゆる側面で公平さを促進してゆく事が重要である。
 - ・自分が大切にされていると全ての人が感じ、帰属意識を持てるようなインクルーシブな文化を築く事に尽力すべきである。
5. 縦目次 P4~8 前千葉大学理事・副学長 山田 賢氏の地区大会記念講演要旨
グローバルとローカル 現代世界の中の「地方創生」

- 「人口減少社会」への取り組みとして「地方創生」が提唱されており、2019年7月に内閣府で検討された「地方創生と今後の課題」において、以下の3つの新しい視点が提唱された。
 - 「関係人口」：地域社会と穏やかでも反復的な関係を維持する「関係人口」を創り将来的に地方移住の流れを作る。
 - 「SDGs」：[地方から世界へ]の発信を地方創生のテコとする。
 - 「企業と連携」：企業投資による地方への資金の流れを強化する。
- 「地方創生」とは、その地域固有な独自性を発見し、それをブランド化してゆく事である。それが、「地方創生」にとって重要である。



[表紙へ](#)